

## 技術評価報告書

申込者： 株式会社ディビーエス 代表取締役社長 山本 俊輔  
愛知県豊橋市豊栄町字東 358 番 1 号

技術名称： DB ヘッド定着工法 RC 構造設計指針(2017 年)

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2017年7月21日付けの技術評価書(SABTEC 評価 11-03R4)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2017年7月21日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

|     |        |                       |      |
|-----|--------|-----------------------|------|
| 委員長 | 窪田 敏行  | 近畿大学                  | 名誉教授 |
| 委員  | 岸本 一蔵  | 近畿大学建築学部建築学科          | 教授   |
| 〃   | 菅野 俊介  | 広島大学                  | 名誉教授 |
| 〃   | 田才 晃   | 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 | 教授   |
| 〃   | 勅使川原正臣 | 名古屋大学大学院環境学研究科        | 教授   |
| 〃   | 三谷 勲   | 神戸大学                  | 名誉教授 |

### RC 構造設計指針(2017 年)

#### 専門部会

|    |      |      |      |
|----|------|------|------|
| 主査 | 岸本一蔵 | 近畿大学 | 教授   |
| 委員 | 窪田敏行 | 近畿大学 | 名誉教授 |



## 技術評価書

申込者：株式会社ディビーエス 代表取締役社長 山本 俊輔  
愛知県豊橋市豊栄町字東 358 番 1 号

技術名称： DB ヘッド定着工法 RC 構造設計指針 (2017 年)

技術概要： 本工法は、円形リング状定着板 (DB リング) とその両側の鉄筋こぶを定着具 (DB ヘッド) とした機械式定着工法であり、GBRC 性能証明第 06-14 号 (2006 年 11 月 7 日) および SABTEC 評価 11-03 (2011 年 10 月 12 日) を取得している。SABTEC 評価 11-03R1 (2012 年 9 月 20 日) は「設計指針 (2012 年)」および適用範囲拡大の妥当性について、SABTEC 評価 11-03R2 (2014 年 9 月 19 日) は「設計指針 (2014 年)」および「DB ヘッド標準製造要領書」の妥当性について SABTEC 評価 11-03R3 (2015 年 7 月 31 日) は「設計指針 (2014 年)」発刊後に判明した点が改定された「設計指針 (2015 年)」の妥当性についてそれぞれ行われている。

今回の技術評価は、今回の技術評価は、RCS 混合構造設計指針が別途作成されたことより、RC 構造を適用対象とした「RC 構造設計指針 (2017 年)」について行われている。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2017 年 7 月 21 日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏 行

### 記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。

DB ヘッド定着工法 設計指針 (2017 年) および説明資料

これらの資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。これらの資料のほかに、DB ヘッド標準製造要領書および関連資料が提出されている。

評価内容： 申込者提案の DB ヘッドは、鉄筋母材の規格引張強さに相当する荷重を受けても損傷せず、本工法設計指針によって設計される DB ヘッドを用いた異形鉄筋の定着部は、設計で保証すべき長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足すると判断される。

## 技術評価内容

### 申込者

株式会社 ディビーエス  
代表取締役社長 山本 俊輔  
愛知県豊橋市豊栄町字東 358 番 1 号

### 技術名称

DB ヘッド定着工法 RC 構造設計指針(2017 年)

### 適用範囲

- (1) 建築物の構造 鉄筋コンクリート造、プレストレストコンクリート造、およびそれらのプレキャストコンクリート造
- (2) 使用材料 コンクリートの設計基準強度： 21 N/mm<sup>2</sup>以上、かつ、60 N/mm<sup>2</sup>以下  
鉄筋：（種類） SD295A、B、SD345、SD390、SD490  
（呼び名） D16、D19、D22、D25、D29、D32、D35、D38、D41  
DB リング：球状黒鉛鋳鉄品 FCD700-2(JIS G 5502)
- (3) 適用箇所 柱梁接合部への大梁主筋の定着、柱梁接合部および基礎への柱主筋の定着、梁への梁主筋の定着、柱、梁および壁への壁筋の定着、梁への小梁主筋およびスラブ筋の定着、アンカーボルトの定着

### 技術評価の主な審議事項

今回の技術評価では、DB ヘッド定着工法 RC 構造設計指針(2017 年) 基本設計編、応用設計編、柱主筋外定着方式編の実験的根拠を確認し、併せて呼び名 D38 用の孔径の標準寸法  $\phi_h$  が 42.5mm の DB リングの妥当性を確認している。また、DB ヘッド標準製造要領書および DB ヘッド製造品質管理状況の妥当性を確認している。

### 技術評価に際して行われた実験等の概要

今回の技術評価では、DB ヘッド定着工法 RC 構造設計指針(2017 年) 基本設計編、応用設計編、柱主筋外定着方式編について、それぞれ下記の 3 項目の実験的根拠が示されている。

- 1) 梁主筋定着部の側面剥離定着耐力
- 2) ト形接合部の終局耐力および梁曲げ降伏後の変形性能
- 3) T 形、L 形接合部の終局耐力および柱、梁曲げ降伏後の変形性能

## 技術評価の経過

2017年4月25日開催の第30回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について、慎重に審議を行い、結果を2017年7月21日開催の第31回建築構造技術審議委員会に報告した。

本委員会は、専門部会の報告について総括的な検討を行い、本技術は妥当なものであると判断した

以上